

⇒ グリム・メルヒェンの日本語訳は、明治20年4月(1887)『西洋古事神仙叢話』桐南居士(管了法 1857-1936)の訳で集成社から刊行されました。「灰かぶり」など11話が邦訳されていますが、英訳版からの重訳でした。

伝統的儒教道徳観から邦訳されており、忠誠心や親への無条件の従順さ、家中心の考え方で精神訓話として書かれている。

「ハツ山羊」明治20年9月(1887)呉文聰訳
東京 弘文社 (西洋昔噺 第1号)

日本的な教育、道徳観、武士道の精神で邦訳されており、『敵討ち、親の命令に背くと災難に遭う』という訓話とされている。

子ども向けの単行本として、珍しいおこし絵の仕掛け本となっている。

「おほかみ」明治22年10月(1889)上田萬年訳
東京 吉川半七 (家庭叢話 第1)

言文一致の平易な文体で表現されているが、ヤギや狼が着物姿で描かれている。「Geiß」(山羊)を「Schaf」(羊)と誤訳している。

